

定期作況報告（改訂版）

3) とうもろこし の所が変更になっています。

（第5号 平成16年9月20日現在）

北海道立上川農業試験場

1. 気象概況

8月下旬：最高気温および最低気温は各々平年より2.4、3.9 低かった。降水量は平年より23 少なく、平年対比57%であった。降水日数は平年より1日少なかった。日照時間は平年より25.4時間多く、平年対比152%であった。夏日（最高気温25 以上）は2日であった。

9月上旬：最高気温は平年より0.8 高く、最低気温は平年より0.3 低かった。降水量は平年より34 少なく、平年対比40%であった。降水日数は平年より1日多かった。日照時間は平年より1.1時間少なく、平年対比98%であった。夏日は4日であった。また、台風18号が9月8日の日中通過し、旭川市で最大瞬間風速30.3m / 秒を記録した。

9月中旬：最高気温は平年より1.5 高く、最低気温は平年より1.4 低かった。降水量は平年より7mm多く、平年対比113%であった。降水日数は平年より3日少なかった。日照時間は平年より10.9時間多く、平年対比126%であった。夏日は1日であった。

8月下旬から9月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	8月下旬			9月上旬			9月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温()	22.5	24.9	2.4	24.1	23.3	0.8	22.0	20.5	1.5	22.9	22.9	0
最低気温()	11.3	15.2	3.9	12.8	13.1	0.3	9.4	10.8	1.4	11.2	13.1	1.9
平均気温()	16.9	19.6	2.7	18.0	17.9	0.1	15.4	15.3	0.1	16.8	17.7	0.9
降水量()	31	54	23	23	57	34	63	56	7	117	167	50
降水日数(日)	3	4	1	6	5	1	3	6	3	12	15	3
日照時間(h)	74.1	48.7	25.4	52.0	53.1	1.1	52.9	42.0	10.9	179.0	143.8	35.2

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10か年の平均値。

3) 印は平年に比べて減を示す。

2. 作 況

1) 水 稲 : やや不良

事 由： 成熟期は平年に比べ9日早かった。登熟日数は平年より6日少なかった。

当たり穂数は中苗「きらら397」が平年よりやや少なかったが、そのほかは平年並であった。一穂粒数は成熟期後の台風により粒が脱粒したこともあり平年対比87～93%でかなり少なかった。その結果、当たり粒数は30,000粒前後となり、平年対比88～93%であった。

稔実歩合は成苗「きらら397」が平年よりわずかに低かったものの、そのほかは平年並であった。当たり稔実粒数（ 当たり粒数×稔実歩合）は平年対比86～92%でかなり少なかった。

登熟初期が高温であったため登熟歩合が高めに推移し、成熟期の登熟歩合も平年より高くなると予想されるものの、 当たり稔実粒数が少ないため減収すると思われる。以上、目下の作況は「やや不良」である。

表2 生育期節

品 種 苗	成熟期（月・日）			登熟日数（日）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397 中苗	9. 6	9.15	9	43	49	6
ほしのゆめ 中苗	9. 5	9.14	9	43	49	6
きらら397 成苗	9. 5	9.14	9	45	51	6

注1) 平年値は平成9～15年7カ年のうち平成10年（最豊年）、平成15年（最凶年）を除いた5カ年の平均を用いた。

2) ・ 印は平年に比べて早・少を示す。

表3 収量構成要素および稔実歩合

品 種 苗	当り穂数（本）				一穂粒数（粒）				当り粒数（×1000粒）			
	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)
きらら397 中苗	687	708	21	97	42.7	47.0	4.3	91	29.3	33.3	4.0	88
ほしのゆめ 中苗	765	766	1	100	41.4	44.4	3.0	93	31.7	34.0	2.3	93
きらら397 成苗	734	730	4	101	40.5	46.4	5.9	87	29.7	33.9	4.2	88
品 種 苗	稔実歩合（%）				当稔実粒数（×1000粒）							
	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)				
きらら397 中苗	91.6	91.9	0.3	100	26.8	30.6	3.8	88				
ほしのゆめ 中苗	90.4	91.4	1.0	99	28.7	31.1	2.4	92				
きらら397 成苗	89.4	91.6	2.2	98	26.6	31.1	4.5	86				

注1) 平年値は平成9～15年7カ年のうち平成10年（最豊年）、平成15年（最凶年）を除いた5カ年の平均を用いた。

2) 印は平年に比べて減を示す。

表4 出穂後経時登熟歩合

品 種 苗	出穂後20日目			出穂後30日目			出穂後40日目		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397 中苗	30.3	6.6	23.7	64.4	41.1	23.3	-	67.0	-
ほしのゆめ 中苗	44.2	8.8	35.4	73.6	43.6	30.0	-	72.3	-
きらら397 成苗	30.0	5.1	24.9	66.4	38.5	27.9	-	68.9	-

注1) 平年値は平成9～15年7カ年のうち平成10年(最豊年)、平成15年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。

2) 登熟歩合は比重1.06の塩水選で求めた。

3) 出穂後40日目は台風によるサンプル消失のためデータ無し。

2) 秋まき小麦：平年より2日早い9月6日に播種を行った。

3) とうもろこし：平年並(改定前と比較してとうもろこしの作況、データが変更になっていません)

事由：稈長および着雌穂高とも平年並みかやや高かった。登熟は順調に進んでいたが、9月8日の台風18号による強風でほとんどの個体が倒伏し、本葉の多くを損失した。収穫は平年より12日早い9月10日に行った。収穫時の熟度はほぼ平年並であった。不稔個体割合は、平年より少なかった。乾総重は、平年をやや下回った。乾雌穂重は「キタユタカ」は平年を下回ったが、「P3732」は平年を上回った。総体の乾物率は、平年よりやや高かった。この結果、TDN収量の平年対比は「キタユタカ」98%、「P3732」100%で、2品種平均では99%となった。

したがって、本年の作況は平年並である。

表5 9月20日のとうもろこしの生育

品種名	稈長 (cm)			着雌穂高 (cm)			収穫期 (月日)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
キタユタカ	251	248	3	108	109	1	9.10	9.22	12
P3732	282	273	9	142	134	8	9.10	9.22	12

品種名	収穫時熟度			不稔個体割合 (%)			乾総重 (kg/10a)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
キタユタカ	黄初-中	黄中	-	5.0	11.7	6.7	1772	1782	10
P3732	黄初	黄初	-	0.0	16.3	16.3	1880	1930	50

品種名	乾雌穂重 (kg/10a)			総体の乾物率 (%)			TDN収量 (kg/10a)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
キタユタカ	722	811	89	30.5	27.6	2.9	1225	1255	30
P3732	846	741	105	29.4	26.9	2.5	1321	1322	1

注1) 平年値は、前7か年中、平成12年、13年を除く5か年の平均値。

2) は平年より早を、 は平年より減を示す。

4)大豆 : やや不良

事由：9月8日の台風による強風の影響により、黄葉期であった「トヨコマチ」は完全に落葉し、黄葉期前であった「トヨムスメ」も葉のほぼすべてに損傷を受けた。開花期が早く生育が進んでいたことに加え、強制的に落葉したため、成熟期は「トヨムスメ」で平年より11日、「トヨコマチ」で9日早まった。主茎長、主茎節数、分枝数は両品種とも平年を下回っている。着莢数は「トヨムスメ」で平年を上回っているが、「トヨコマチ」は平年を下回っている。なお、登熟期間中の落葉により、百粒重の低下が予想される。

したがって、目下の作況はやや不良である。

表6 9月20日の大豆の生育

品 種 名	成 熟 期 (月日)			主 茎 長 ()			主 茎 節 数 (節)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	9.21	10.2	11	59	63	4	9.9	10.4	0.5
トヨコマチ	9.15	9.24	9	62	65	3	10.6	11.1	0.5

品 種 名	分 枝 数 (本/株)			着 莢 数 (個)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	5.9	7.4	1.5	84	76	8
トヨコマチ	5.4	6.7	1.3	70	77	7

注1) 平年値は、前7か年中、平成9年(最豊)及び平成14年(最凶)を除く5か年の平均値。

2) は平年より早を示す。 は平年より減を示す。

5)小豆 : 不良

事由：成熟期は平年より15~16日早かった。主茎長は両品種とも平年を若干上回り、分枝数はほぼ平年並であった。開花から登熟期に当たる8月上~中旬の高温干ばつの影響で、着莢数は平年を下回った。なお、登熟期間が短かったため、百粒重は平年より軽くなることが予想される。

したがって、目下の作況は不良である。

表7 成熟期の小豆の生育

品 種 名	成 熟 期 (月日)			主 茎 長 ()			分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	8.19	9.4	16	61	59	2	5.1	5.4	0.3
エリモショウズ	8.25	9.9	15	61	59	2	5.3	5.2	0.1

品 種 名	着 莢 数 (個)		
	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	54	59	5
エリモショウズ	52	58	6

注1) 平年値は、前8か年中、平成14年(最豊)、11年(最凶)、12年(参考)を除く5か年の平均値。

2) は平年より早、 は平年より減を示す。

6) ばれいしょ : 良

事由: 「農林1号」の枯凋期は平年に比べ9日早かった。上いもならびに中以上いも収量は平年対比106%、105%であった。でん粉価は平年に比べ1.4%高く、でん粉収量は平年より174kg多く、平年対比120%と多収であった。

「男爵いも」の枯凋期は平年に比べ4日早かった。上いも収量は平年より1091kg多く、また、中以上いも収量も平年より943kg多く、共に平年対比123%と多収であった。でん粉価も平年より0.4%高かった。

したがって、今年の作況は良である。

表8 9月20日のばれいしょの生育

品種名	枯凋期(月日)			上いも重(kg/10a)			中以上いも重(kg/10a)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
農林1号 男爵薯	9.14	9.23	9	6094	5765	329	5480	5211	269
	8.25	8.29	4	5907	4816	1091	5040	4097	943

品種名	でん粉価(%)			でん粉重(kg/10a)			収量平年比(%)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	上いも	中以上	でん粉
農林1号 男爵薯	17.0	15.6	1.4	1036	862	174	106	105	120
	14.5	14.1	0.4	857	604	253	123	123	142

注) 平年値は、前6か年の平均値。

7) てんさい : 平年並

事由: 8月中旬までの干ばつの影響のため、前節に引き続き生葉数は平年よりやや少なく、草丈も平年をやや下回ったが、根周は平年をやや上回っている。なお、9月8日の台風の強風のため、葉の先端部の枯凋が認められる。

したがって、目下の作況は平年並である。

表9 9月20日のてんさいの生育

品 種 名	草丈(cm)			生葉数(枚/株)			根周(cm)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
モノホマレ	58.3	59.8	1.5	30.5	32.7	2.2	34.7	33.5	1.2

注 1) 平年値は前7か年中、平成11年、15年を除く5か年の平均値。

2) は平年より減を示す。